

歩くほどに自然に笑顔

～ウォーキング立県TOTTORIを目指して～

コースは、倉吉パークスクエアを発着点に湯梨浜町の東郷池周回や中国山地を望む倉吉市関金町、小泉八雲ゆかりの琴浦町を歩く。

初日は40、24、10、5キロの4コースを設定。最長の40キロコースは湯梨浜町の馬ノ山古墳や倭文神社を經由し、同町引地の中国庭園・燕趙園のゴールを目指す。

24キロは、二十世紀梨園の広がる大平山から東郷池や日本海を望む。10、5キロコースは市内の白壁土蔵群や赤瓦など、遥かなまち倉吉を舞台に「レトロ紀行」を堪能できる。

2日目は30キロの里見八犬伝コース、23キロの小泉八雲・コナンコース、10キロの淀屋・福の神コース、5キロの倉吉レトロコースおかわり！と、県中部にゆかりのある偉人のスポットを巡りながら歴史探訪を楽しむ。同日共通して5キロコースでは、歩きながら親子で楽しめるクイズが行われる。

今年、ご当地の食材がふんだんに盛り込まれたお弁当を用意。初日は、地元特産のあごちくわや実行委員会のメンバーが生産した北条砂丘ラッキョウを入れた「道中

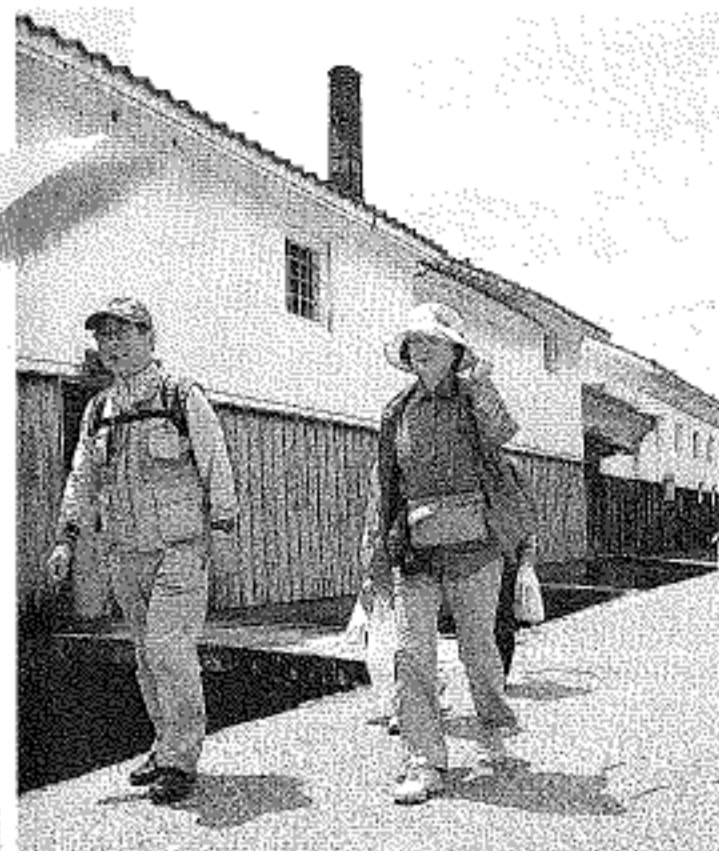
未来弁当」。2日目は琴浦町のやまびこサークル(幅田佐美子代表、11人)が、山菜おこわをメインに由良漬を添えた「八雲弁当」を真心込めて手作りする。お弁当は事

前の申し込みが必要。

問い合わせは電話0858(22)8999、NPO法人未来事務所内「未来ウォーク実行委員会」へ。



中国庭園・燕趙園前でしじみ汁を堪能する参加者



交流会場周辺の白壁土蔵群

特産品ふんだんに 温かいおもてなし 【ふれあい広場】

大会のメイン会場となる倉吉パークスクエアのふれあい広場では、倉吉市や協賛企業、団体によるさまざまな出店やフリーマーケットが開かれ、大会

を盛り上げる。出店には、おこわやそば、豆腐など県中部の特産加工品販売や綿菓子やかき氷などの屋台が並ぶ。今話題の両手にボールを持って歩く「ノルディックウォーク」の体験コーナーも設けられる。毎年好評を得ている足湯やJA鳥取中央のプリンスメロンの試食も行われ、ウォークに参加しない方でも気軽に楽しむことができる。コース中では、初日の中国庭園・燕趙園前でしじみ汁が振る舞われ、2日目の琴浦町八橋の旧中井旅館前で、特産品でウォーカーを歓迎する。



ウォーカーのオアシスとなる足湯

ウォーカーたちの親睦深める 交流会や記念フォーラム

全国から集まったウォーキング愛好者の交流の場として、大会初日の6月6日午後4時半から、倉吉市西仲町の高田酒造の酒蔵で交流会が行われる。

会場は大会のコースにもなっている赤瓦・白壁土蔵群のエリアにあり、「遥かなまち倉吉」を満喫しながらウォーカー同士の親睦を深める。

開催記念フォーラムとして大会前日の5日午後8時から、倉吉市上井町1丁目のホテルセントパレス倉吉で、「ウォーキング立県T

OTTORIをめざして」、6日午後2時から大会主会場となる倉吉パークスクエア内の倉吉未来中心セミナールーム1で、「歩育のすすめ」が開かれる。参加無料。未来ウォーク実行委員会の遠藤公章実行委員長は「ウォークがもたらす『健康』『環境』『観光』『教育』『交流』の頭文字の5つのKがそろった大会です。回を重ねるごとに増えるボランティアや地元有志のおもてなしの心に感謝し、大会の成功に向け取り組みます」と抱負を語っている。



新緑のトンネルを歩く参加者(昨年)

日本市民スポーツ連盟公認大会「風を感じて歩こう」第九回日本海未来ウォーク(NPO法人未来、新日本新聞社など主催)が、倉吉市駄経寺町の倉吉パークスクエアを主会場に行われる。

県中部の春の行楽イベントとして定着して今年で九回目。市の春まつり「遥かなまち倉吉・レトロの春」を締めくくるとウォーキング大会となる。すでに北海道から九州までのウォーキング愛好者約千人が事前申し込みをしている。今年もウォーキング立県TOTTORIを目指して、をテーマに、約百五十人のボランティアスタッフが準備を進めており、発着点となる会場やコースの道中など、細部にわたって県中部の魅力を満喫できる仕掛けが用意されている。

第9回日本海未来ウォーク
2009年6月6日(土)～7日(日)

倉吉パークスクエア